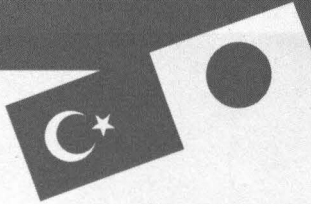


●参考資料—— 1

日本・トルコ関係の年表

Chronological Table





日本・トルコ関係の年表

Chronological Table

西暦	関係内容
1873年	フランス滞在中の岩倉使節団より、一等書記官の福地源一郎が浄土真宗僧侶の島地黙雷を伴い、立会裁判諸制度の視察のためにオスマン帝国のイスタンブルに派遣される。
1875年	青木周蔵外務卿の上奏に基づき上野景範駐英公使がオスマン帝国との国交樹立交渉を試みる。
1876年	駐イギリス公使館一等書記生の中井弘と駐オーストリア公使館一等書記官の渡邊洪基とが、日本帰国途上にイスタンブル訪問し、外相ラーシド・パシャらに謁見。
1878年	海軍軍艦の清輝がイスタンブルを訪問、艦長の井上良馨中佐がスルタン・アブデュルハミト2世に謁見。
1881年	外務省御用掛の吉田正春・陸軍大尉の古川宣誉らがイスタンブルを訪問、アブデュルハミト2世に謁見。
1886年	内閣顧問の黒田清隆がイスタンブルを訪問。農商務大臣の谷干城・秘書の柴史朗(東海散史)がイスタンブルを訪問、アブデュルハミト2世に謁見。
1887年	小松宮彰仁親王・妃殿下が外遊にてイスタンブルを訪問、アブデュルハミト2世に謁見。
1888年	明治天皇より、アブデュルハミト2世に対して小松宮彰仁親王・妃殿下への厚遇に対する返礼親書および大勲位菊花大綬章が奉呈される。
1889年	アブデュルハミト2世の発意により、明治天皇に親書とイムティヤーズ勲章とを奉呈すべく、軍艦エルトゥールル号がイスタンブルを出港。独公使館付武官陸軍の福島安正少佐がバルカ

西暦	関係内容
	ン諸国歴訪中にイスタンブルを訪問。
1890年	エルトゥールル号の日本訪問、特派使節オスマン・パシヤらが明治天皇に謁見。エルトゥールル号がコレラ感染、横須賀・長浦消毒所にて隔離消毒。帰途上にエルトゥールル号が和歌山県大島付近で海難、約500名が死亡(=エルトゥールル号事件)。生存者69名送還のために軍艦の比叡・金剛がオスマン帝国へ派遣。内務省指示により国内潜水業者の協力を得ながら大島で遺体・遺品の徹底的回収の継続。
1891年	比叡・金剛のイスタンブル訪問。自社の集めた義捐金(約4,247円)献呈のため便乗した『時事新報』記者の野田正太郎はアブデュルハミト2世に請われて、士官学校の日本語講師として残留(～1892年)。野田正太郎、イスラーム教に改宗。『東京日日新聞』・『毎日新聞』募集のエルトゥールル号義捐金(約737円)をオスマン帝国に献呈。和歌山県が『大阪朝日新聞』の義捐金(約152円)などをもとに大島村に慰霊碑を建立。内務省の指示により大島で回収された大砲・鉄砲・剣などの武器類、勲章・金銭、生活雑貨など大量の遺品が横浜に回送され、フランス船によりイスタンブルに返送(船費はトルコ負担)。内務省警保局長の清浦奎吾がイスタンブル訪問。
1892年	日土間の貿易起業調査のために山田寅次郎がイスタンブルを短期訪問、その際に自身らが集めた義捐金(約92円)を献呈。山田は野田の全面協力を得ることにより事情調査ならびに商工会議所に知遇を得るなどの成果をあげて帰国し、東京および関西にて貿易起業の出資者募集活動に従事。幸田露伴が山田寅次郎を題材とした小説「書生商人」を発表。野田の帰国に伴い士官学校の日本語講座が消滅。
1893年	アブデュルハミト2世より明治天皇に馬2頭贈呈のために侍従武官アフメト少佐が日本に派遣。オスマン帝国より大島村に対して3,000円の謝礼金が贈与され、和歌山県庁の判断で村の基



西暦	関係内容
	金とされた。山田寅次郎が貿易起業のためイスタンブル再訪、商工会議所書記長のスピラキ氏邸に寄宿し、商工会議所内に日本商品見本を展示(のちに日本商品販売所を設立し独立)。
1894年	小松宮(後に独立して東伏見宮)依仁親王・長崎省吾らがイスタンブルを訪問し、アブデュルハミト2世に謁見。細川護成・池辺吉太郎らのイスタンブル訪問。
1896年	陸軍大佐の福島安正が欧亜歴訪途上にイスタンブルを再訪。大阪在住商人の中村為三郎がイスタンブル訪問、ペラ大通りに面する好立地に中村商店の設立(?)。新聞記者の朝比奈知泉・望月小太郎がイスタンブル訪問。通信省官吏の田健治郎らがイスタンブルを訪問し、アブデュルハミト2世に謁見。徳富蘇峰・深井英五がイスタンブルを訪問。徳川頼倫・鎌田栄吉らがイスタンブルを訪問。陸軍少将の寺内正毅・大尉の立花小一郎がイスタンブルを訪問、アブデュルハミト2世に謁見。
1897年	この年までに中村健次郎がイスタンブルに到着、中村商店店主に就任(山田は同店主菅)。朝比奈知泉がイスタンブルを再訪。海軍少佐の島村速雄が希土戦争の調査でイスタンブルに到来。
1899年	台湾総督府より派遣された家永豊吉がオスマン帝国領内にてアヘン事情調査。大島村主催でエルトゥールル号遭難10周年追悼祭。山田寅次郎、日本へ短期の一時帰国。近衛篤磨らヨーロッパ諸国歴訪途上にイスタンブルを訪問。スピラキ氏が没する。
1900年	大蔵省役人の橋本圭三郎・農学博士の佐々木善次郎(蘆舟)がオスマン帝国内にて煙草事情調査。
1902年	冒険家の中村直吉が世界周遊途上にイスタンブルを訪問。陸軍大佐の長岡外史がイスタンブルを訪問。
1903年	ヨーロッパ留学中の井上雅二がイスタンブルを訪問。

西暦	関係内容
1904年	日露戦争にともない、オデッサ領事の飯島亀太郎・書記官の松本幹之亮が、ロシア事情調査のためにイスタンブルに到来、中村健次郎が中村商店が協力するも戦局を左右する情報入手には至らず。オスマン帝国より陸軍大佐のベルテヴ・デミルトハンが観戦武官として中国・日本に派遣され旅順・奉天の戦役を観戦（～1906年）、オスマン帝国で一時的に日本への関心高揚。建築学研究者の伊東忠太がオスマン帝国内にて建築調査。山田寅次郎が日本へ（一時？）帰国（1914年帰国は不正確）。野田正太郎が没す。
1905年	日本に帰国した山田寅次郎がシガレット・ペーパー事業起業。
1906年	この頃、中村（登坂）栄一が家族を伴いイスタンブルに到来し、中村健次郎が日本へ帰国、中村商店経営を任される。徳富蘆花がイスタンブルを訪問。衆議院議員の長谷場純孝がイスタンブル訪問。
1907年	陸軍中佐の森岡守成が初の駐在武官としてイスタンブルに着任（～1909年）。
1908年	大蔵省官僚の阪谷芳郎がイスタンブル訪問。博文館の坪谷善一郎・北浜銀行頭取の小塚正一郎がイスタンブル訪問。
1909年	大島村主催でエルトゥールル号遭難20周年追悼祭。歴史学者の黑板勝美、法学者の立作太郎がイスタンブル訪問。陸軍中佐の佐藤小次郎が駐在武官としてイスタンブルに着任（～1911年）。アブデュルレシト・イブラヒムの訪日。
1910年	陸軍少将の宇都宮太郎が日土条約締結に向け積極的に活動。日本人初のメッカ巡礼を果たした山岡光太郎がイスタンブルを訪問。井上雅二がイスタンブル再訪。
1911年	陸軍中佐の村岡長太郎が駐在武官としてイスタンブルに着任



西暦	関係内容
	(～1913年)。陸軍大将の乃木希典・陸軍中佐の吉田豊彦がイギリスからの帰国途上にイスタンブルを訪問、スルタンのメフメト5世に謁見。銀行家の星野行則がイスタンブル訪問。山田寅次郎『土耳其画観』刊行。
1914年	第一次世界大戦開戦。中村商店がイスタンブル撤退し、中村栄一が帰国、雇用人のパスカル・レイモンドが継承して「富士山中村商店」を開店(～1960年頃まで)。
1917年	第二特務艦隊(司令官：佐藤臯蔵少将)を英仏船護衛任務で地中海に派遣(～1919年)、イスタンブルに寄港。
1920年	陸軍中佐の桑木崇明が駐在武官としてイスタンブルに着任(～1921年)。
1921年	シベリアにおけるトルコ人捕虜をイスタンブルへ移送中の日本船平明丸がエーゲ海でギリシャ軍により拿捕・長期抑留される(＝平明丸事件)。特命全権公使の内田定槌が連合国と同様に高級委員名義にてイスタンブルに着任。
1923年	内田特命全権公使が特命全権大使に昇格。内田大使の帰国にともない笠間杲雄一等書記官が臨時代理大使に就任。ローザンヌ条約の締結。
1924年	ローザンヌ条約の発効、日本・トルコ間に初の国交樹立なる。満洲在住のクルバンガリーが東京に招聘され、東京回教団を結成。
1925年	笠間臨時代理大使の帰国により、花岡止郎参事官が臨時代理大使に就任。イスタンブルに日本大使館、東京にトルコ大使館の開設。小幡西吉特命全権大使がイスタンブルに着任。内藤智秀が通訳として日本大使館に着任。大阪商工会議所内に日土貿易協会(会長：稲畑勝太郎、理事長：山田寅次郎)の設立。

西暦	関係内容
1926年	大谷光瑞門下の後藤智がイスタンブルのガラタサライ高校に留学。大谷光瑞一行がトルコ各地を視察。イスタンブルで日本商品見本市の開催。東京に日土協会(会長：内田定植)の設立。海軍練習艦隊の八雲・出雲がイスタンブル寄港。司令官の山本英輔中將らがアンカラにムスタファ・ケマルを表敬訪問。芦田均が一等書記官としてイスタンブル着任。日本外務省がイスタンブルで近東貿易会議を開催。
1927年	大谷光瑞がアンカラの農場経営に出資、上村辰巳ら門下生を派遣。陸軍少佐の橋本欣五郎が駐在武官としてイスタンブルに着任(～1930年)。
1928年	小幡大使の帰国により一等書記官の芦田均が臨時代理大使に就任。日土貿易協会が大島村にてエルトゥールル号慰霊祭を大規模開催。大谷光瑞一行がトルコ各地を再視察。大谷光瑞がブルサの絹布工場に出資。商工省、イスタンブル日本商品館の設立を決定。
1929年	高松宮宣仁親王が日土協会総裁に就任。ブルサで大谷光瑞・ギョクチェン家の共同出資になる絹布工場が開業(～1931年?)。商工省が設立し日土貿易協会に経営委託されたイスタンブル日本商品館の開館(館長：安江安吉、1937年に閉鎖)。日本郵船がイスタンブル航路開設。日土通商仮条約の締結。日土貿易協会が大島村にエルトゥールル号事件の弔魂碑(題字：大谷光瑞)を建立。昭和天皇が和歌山県行幸に際して大島村を訪問。
1930年	吉田伊三郎特命全権大使がイスタンブルに着任。陸軍中佐の飯村穰が駐在武官としてイスタンブルに着任(～1932年)。日土通商航海条約の締結(1931年発効)。東京に回教学校・回教印刷所が開設。日土貿易協会理事長の山田寅次郎がギリシャとトルコに派遣、アンカラで共和国記念日式典に参加。
1931年	高松宮宣仁親王・妃殿下がトルコを訪問、ムスタファ・ケマル・



西暦	関係内容
	アタチュルク大統領に謁見。大阪商工会議所会頭の森平兵衛が大阪在住トルコ名誉領事に就任。東京・日本橋三越で「土耳其国情展」の開催。名古屋モスクの開堂(1945年焼失)。内藤智秀が『日土交渉史』で東京大学文学博士号を取得。
1932年	陸軍中佐の神田正種が駐在武官としてイスタンブルに着任(～1934年)。
1933年	吉田大使がアンカラで客死、武者小路公共特命全権大使がイスタンブルに着任。日土貿易協会理事長の山田寅次郎が大阪在住ギリシャ名誉領事に就任。トルコ在住のアブデュルレシト・イブラヒムが日本に招聘される。トルコ民族主義活動家のアヤズ・イスハキーが来日。オスマン皇族アブデュルケリムが日本訪問。
1934年	バーター貿易のために日土貿易組合の設立。海軍練習艦隊の磐手・浅間(司令官：松下元中将)がイスタンブル寄港。陸軍中佐の芳仲和太郎が駐在武官としてイスタンブルに着任(～1936年)。日土貿易仮協定が調印。徳川家正特命全権大使がイスタンブルに着任。東京でクルバンガリー派とイスハキー派との衝突(＝和泉橋倶楽部事件)。
1935年	神戸モスク(神戸ムスリム・モスク)の開堂。
1936年	モントルー条約締結。国際連盟の海峡委員会(日本も加盟)の廃止。陸軍中佐の磯村武亮が駐在武官としてイスタンブルに着任(～1938年)。トルコ研究者の大久保幸次がトルコ訪問、ムスタファ・ケマルに謁見。
1937年	武富敏彦特命全権大使がイスタンブルに着任。大島村にトルコ政府出資による新慰霊碑の建立と追悼祭の挙行。海軍練習艦隊の八雲・磐手(司令官：古賀峯一中将)がイスタンブル寄港。日土貿易協会が近東貿易協会と改称。日本大使館がイスタンブルからアンカラへ移転。日土貿易協定が調印。

西暦	関係内容
1938年	クルバンガリーが満洲へ国外追放。東京回教堂（東京モスク）の開堂（1984年閉鎖、1986年取り壊し）。東京に回教圏攷究所（1940年に回教圏研究所に改称）の設立。陸軍中佐の立石方亮が駐在武官としてアンカラに着任（～1939年）。
1939年	大日本回教協会が東京・大阪・名古屋で「回教圏展覧会」を開催（～1940年）。
1940年	栗原正特命全権大使がアンカラに着任。
1942年	外務省官補の小林高四郎がソ連経由でアンカラに赴任。土＝ソ経路は戦時における唯一の日欧経路。
1943年	東京のトルコ大使館が軽井沢万平ホテルへ疎開、在日トルコ人も軽井沢に疎開させられる。
1944年	東京でアブデュルレシト・イブラヒムが没し、多摩墓地内のイスラーム教徒墓地に埋葬。
1945年	トルコ大国民議会が対日国交断絶を決議。アンカラの日本大使館閉鎖。
1947年	大久保幸次が没す。
1948年	随筆『イスタンブールの夜』（著：小林高四郎）の刊行。
1949年	小説『君府』（作：橘外男）の刊行。
1950年	ユセフ・トルコがトルコ軍団を組織して柔拳試合の興行。
1951年	サンフランシスコ平和条約の締結（1952年発効）。東京にトルコ総領事館の開設。



西暦	関係内容
1952年	東京にトルコ大使館の再開。ユセフ・トルコが力道山傘下のプロレスに転進。
1953年	アンカラに日本大使館の再開。日土通商航海条約の復活。
1954年	日本郵船が中近東航路を再開。歌謡曲「ウスクダラ」（歌：江利チエミ）の流行。
1955年	日土貿易支払協定の締結。
1956年	広島の実験爆弾を主題とした詩、ナズム・ヒクメット「クズ・チョジュウ（和訳：死んだ少女）」発表。
1957年	日土査証相互免除協定の締結（1958年発効）。山田寅次郎が没する。
1958年	大島村と串本町とが合併して串本町に統合。アドナン・メンデレス首相の来日。
1959年	日土間のオープン・アカウント制度廃止、自由貿易へ移行。エルトゥールル号遭難70周年追悼祭。
1963年	三笠宮崇仁親王・妃殿下がトルコを訪問。日本貿易振興会事務所がイスタンブルに開設。
1964年	エルトゥールル号遭難75周年追悼祭。串本町とヤカセント町とが姉妹都市提携。
1965年	イスタンブルに日本領事館が開設（1972年に総領事館に昇格）。対日トルコ政府奨学金制度の設立。『ナスレディン・ホジャ物語』（護雅夫：訳）刊行。
1969年	エルトゥールル号遭難80周年追悼祭。アンカラに日土婦人友好文化協会が設立。

西暦	関係内容
1970年	経団連の大型経済使節団がトルコ訪問。
1972年	メルシンに大島と同形の慰霊碑が建立。下関市(山口県)とイスタンブール市が姉妹都市提携。レコード「愛の想いで」・「忘れえぬ人」(歌: アジダ・ベッカ)がリリース。
1974年	パリでトルコ航空機墜落事故(日本人犠牲者48人)。エルトゥール号遭難85周年追悼祭、大島にトルコ記念館が開館。イスタンブールに日本政府円借款事業で石川島播磨建設らによるゴールデンホーン橋(旧橋)の建設。
1975年	串本町とメルシン市とが姉妹都市提携。
1976年	イスタンブールに日土婦人友好文化協会支部が設立。
1977年	東京の第8回世界歌謡祭(主催: ヤマハ)にアジダ・ベッカ「夢からさめて」で出場(歌唱賞受賞)。
1978年	「飛んでイスタンブール」(歌: 庄野真代)の流行。
1980年	アメリカでTVドラマ「SHOGUN」の放映(後にトルコでも放映、一時的に日本ブーム)。
1982年	俳優ロイ・ジェームス(亡命カザン・タタール人で東京モスクの元イマーム、アイナン・サファの子息)が没し、多摩墓地内のイスラーム教徒墓地に埋葬。
1984年	日本・トルコ議員友好連盟の設立。アンカラで土日協会の設立。日本でソーブランド名称改称。NHK「シルクロード」第2部にてトルコ取材放映(後にトルコでも放映、喜多郎のテーマ曲が流行)。
1985年	トルコ・日本議員友好連盟の設立。トルコ航空機によるテヘラン在住日本人のイスタンブール脱出。オザル首相夫妻の訪日。イ

西暦	関係内容
	スタンプルで日本政府開発援助により石川島播磨工業などの建設になる第2ボスボラス橋(ファーティフ・スルタン・メフメト橋)架橋工事の起工(1988年完成)。エルトゥールル号遭難95周年追悼祭。映画『路』(監督ウルマズ・ギュネイ)の日本公開。
1986年	イスタンブルとアンカラで「日本週間」の開催。イスタンブルに土日友好協会の設立。アンカラ大学に日本語・日本文学科の設立。中近東文化センターのカマン・カレホユック遺跡発掘調査の開始。
1987年	京都に日本トルコ文化協会の設立。イスタンブル日本人会の設立。
1988年	寒河江市(山形県)とギレスン市とが姉妹都市提携。東京・新宿に初のトルコ料理専門店が開店。
1989年	オザル首相夫妻が「大葬の礼」に出席。日土航空協定の締結、成田＝イスタンブル間の直行便の開設。砺波市(富山県)とヤロバ市とが姉妹都市提携。
1990年	オザル大統領夫妻が「即位の礼」に出席。トヨタとサバンジュとが共同の自動車生産・販売に合意。海部俊樹首相がアンカラを訪問。日土修好(＝エルトゥールル号遭難)100周年記念事業が様々に展開。
1992年	スレイマン・デミレル首相夫妻の訪日。日土投資保護協定の締結(1993年批准書交換)。東京外国語大学ペルシア語学科内にトルコ語専攻の設立。本田技研がアナドルと合資で、アナドルHONDAを設立。
1993年	日土租税協定の締結(1994年批准書交換)。東京外国語大学中東学科トルコ語専攻の設立。チャナッカレ大学に日本語教育学科の設立。カマンの三笠宮記念庭園(日本庭園)が一般開放。

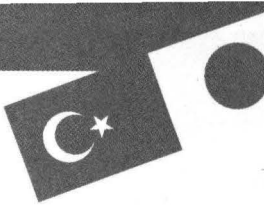
西暦	関係内容
1994年	アダパザル市の工場でトヨタとサバンジュとの合併事業トヨタサが自動車生産開始。エルジエス大学(カイセリ市)に日本語教育学科の設立。
1995年	東京のトルコ大使館内に在日トルコ商工会議所の設立。タンス・チルレル首相夫妻の訪日。国民の人気歌手のバリシュ・マンチョが民音の招聘で日本公演。
1996年	テーマパークの柏崎トルコ文化村の開村。
1997年	アンカラに土日基金文化センター開設。
1998年	イスタンブル近郊ゲブゼ区のアナドルHONDAで自動車生産開始。カマンに中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所の開設。女優の高野あゆ美がトルコ映画『Herşey Çok Güzel Olacak』に出演、以後トルコ芸能界で活躍。
1999年	イスタンブルに日本政府円借款事業で石川島播磨建設らによるゴールデンホーン橋(旧橋補修と新橋建設)の建設。
2000年	東京モスク(東京ジャーミイ)及びトルコ文化センターの開設。トルコでTVアニメ「ポケット・モンスター」の大流行、賛否両論の社会現象が起きる。
2001年	柏崎トルコ文化村が休園(2002年に一時的に再開するが再度休園)。トヨタ・サバンジュ合併事業からサバンジュ撤退、トヨタ100%出資のトヨタ・トルコ(TMTT)に改組(2009年に累計生産100万台を突破)。
2002年	FIFAワールドカップ日韓大会でトルコ3位入賞。日本にイルハン・マンスズ選手ブーム。雪印乳業「トルコ風アイス」製造販売開始。
2003年	「日本におけるトルコ年」。アナドルHONDAが100%日本出資

【作成・文責：三沢伸生・東洋大学准教授】

Ek 1

Türk-Japon İlişkileri Kronolojisi





Türk-Japon İlişkileri Kronolojisi

1873	Fransa'daki İWAKURA Heyeti'nde birinci sekreter görevinde bulunan Genichirô FUKUCHI, Budist rahip Mokurai SHİMAJİ ile beraber Osmanlı İmparatorluğu'ndaki mahkeme sistemini incelemek için İstanbul'a gitti.
1875	Dış İşleri Bakanı Shüzô AOKI'nın direktifiyle Japonya'nın Londra Orta Elçisi Kagenori UENO, Osmanlı Devleti ile diplomatik ilişkilerin başlatılması için resmi müzakerelerde bulundu
1876	Japonya'nın Londra Orta Elçiliği'nde birinci sekreter olarak görevli Hiroshi NAKAI ve Viyana Orta Elçiliği'ndeki birinci sekreter Hiromoto WATANABE, Japonya'ya dönüş yolculuğu sırasında İstanbul'a uğrayarak Türk Dış İşleri Bakanı Raşid Paşa ile görüştü.
1878	Japon savaş gemisi SEIKI, İstanbul'a gitti. Kaptan Yarbay Yoshika İNOUE, Sultan II.Abdülhamid ile görüştü.
1881	Japonya Dış İşleri Bakanlığı yetkilisi Masaharu YOSHIDA ve Kara Kuvvetleri'nde görevli yüzbaşı Nobuyoshi FURUKAWA, İstanbul'a gitti ve Sultan II. Abdülhamid ile görüştü.
1886	Japonya Başbakanlığı personeli Kiyotaka KURODA, İstanbul'a gitti. Japonya Ziraat ve Ticaret Bakanı Tateki TANİ ve özel sekreteri Shirô SHIBA (Sanshi TOKAI) İstanbul'a gitti ve Sultan II.Abdülhamid ile görüştü.
1887	Prens Komatsu (Komatsu-no-miya) Akihito ve eşi İstanbul'a ziyaret etti ve Sultan II.Abdülhamid ile görüştü.
1888	İstanbul'u ziyareti sırasında Prens Komatsu (Komatsu-no-miya) ve eşine gösterilen misafir perverlikten duyulan memnuniyete istinaden İmparator Meiji tarafından Osmanlı İmparatorluğu Sultanı II. Abdülhamid'e Japonya'nın en yüksek derecedeki devlet nişanı olan Büyük Krizantem hediye edildi. Bunun yanı sıra, İmparator Meiji'nin Sultan'a özel gönderilmiş bir mektubu da heyetle birlikte gönderildi.
1889	İmparator Meiji'ye Osmanlı Devleti'nin İmtiyaz Nişanını ve II. Abdülhamid'in özel mektubunu götürmek, ayrıca iade-i ziyarette bulunmak amacıyla Ertuğrul Fırkateyni, İstanbul'dan hareket etti. Japonya'nın Almanya Orta Elçiliği'nde görevli askeri ataşesi kıdemli yüzbaşı Yasumasa FUKUSHİMA, Balkan ülkelerini ziyaret amacıyla çıktığı yolculuğu çerçevesinde İstanbul'a da gitti.
1890	Ertuğrul Fırkateyni Japonya'ya ulaştı. Elçi Osman Paşa, İmparator Meiji ile görüştü. Ertuğrul Fırkateyni mürettebatının bir kısmı kolera hastalığına yakalandı. Bunun üzerine, hastalar Yokosuka'daki NAGAURA Karantina Merkezi'nde tedavi altına alındı. Ertuğrul Fırkateyni, İstanbul'a dönüş yolculuğu sırasında WAKAYAMA Eyaleti Ōshima Adası yakınlarında battı. Bu kazada yaklaşık 500 kişi öldü ve sadece 69 kişi kurtuldu. Kurtarılanlar ise, sonradan Ja-

pon savaş gemileri HİEİ ve KONGÔ ile Osmanlı İmparatorluğu'na götürüldü. Japonya İç İşleri Bakanlığı öncülüğünde Ōshima Adası açıklarındaki kaza bölgesinde dalgıçlar tarafından yapılan aramalarla ölenlerin ve gemiden kalan eşyaların çıkarılması çalışmaları gerçekleştirildi.

1891 HİEİ ve KONGÔ Gemileri, İstanbul'a vardı. Jiji Shinpô Gazetesi yazarı Shôtârô NODA da, HİEİ Gemisi ile İstanbul'a gitti ve gazete tarafından toplanan 4,247 Japon Yeni değerindeki iane çekini Osmanlı İmparatorluğu yetkililerine teslim etti. NODA, Sultan II. Abdülhamid'in talebiyle İstanbul'da kalarak Harbiye Askeri Okulunda Japonca dersleri vermeye başladı (~1892). Shôtârô NODA, bu sırada musluman oldu. Jiji Shinpô dışında, Tokyo Nichi Nichi Shinbun ve Mainichi Shinbun Gazeteleri de Ertuğul kazasına istinaden iane parası topladı. Bu iki gazetenin topladığı yardım parası ise 737 Yen 'di. Bu para havale yolu ile Osmanlı'ya verildi. Ayrıca Wakayama Valiliği, Osaka Asahi Shinbun Gazetesinin topladığı 152 Yen civarındaki yardım parasıyla Ōshima'da Ertuğrul Anıtı inşa etti. Japonya İç İşleri Bakanlığı tarafından Ōshima Adası'nda yapılan dalma-arama çalışmalarında çok sayıda Ertuğrul Fırkateyni'ne ait malzeme (top, tüfek, tabanca, madeni para, nişan ve özel eşyalar vs) çıkarıldı. Bunlar, daha sonra Yokohama Limanı'na nakledildi ve buradan da bir Fransız gemisi ile İstanbul'a gönderildi (Yol masrafları Osmanlı tarafından ödenmiştir). Japonya İç İşleri Bakanlığına bağlı Güvenlik Teşkilatı Başkanı Keigo KIYOURA, İstanbul'a gitti.

1892 Torajirô YAMADA, Türkiye'de ticaret hayatına atılmak için ön-araştırma yapmak adına kısa süreliğine İstanbul'a gitti. Bu esnada kendisinin Ertuğrul kazasına atfen topladığı yardım paralarını Osmanlı yetkililerine verdi (Yaklaşık 92 Yen). YAMADA, Shôtârô NODA'nun desteğiyle İstanbul'daki ticaret ve sanayi çevreleriyle görüşmeler yaptı ve sonrasında Japonya'ya döndü. Akabinde ise Tokyo'daki ve Kansai Bölgesi'ndeki iş çevreleriyle görüşerek İstanbul'daki ticari faaliyetleri için yatırım bulmaya çalıştı. Meşhur Roman yazarı Rohan KÔDA, Yamada'nın hayat hikayesinden esinlenerek "Shosei Shonin (Öğrenci Tüccarı)" adlı eseri yayınladı. Shôtârô NODA, Japonya'ya döndü. Bu yüzden Harbiye Askeri Okulu'ndaki Japonca derslerine son verildi.

1893 Sultan II. Abdülhamid tarafından İmparator Meiji'ye 2 adet at hediye edilmesine istinaden Yıldız Sarayı görevlisi binbaşı Ahmet atların bakımı için Japonya'ya gönderildi. Osmanlı İmparatorluğu tarafından Ertuğul Fırkateyni kazası sırasında gösterilen misafirperverlik ve yardım-kurtarma çalışmalarına atfen Ōshima' Köyü'ne 3.000 Yen hibe edildi. Bu para Wakayama Eyalet Meclisinin kararıyla Ōshima' Köyünün kasasına kondu. Torajirô YAMADA, ticaret hayatına atılmak üzere İstanbul'a gitti. Osmanlı Ticaret Odası Sekreteri Spiraki'nin konağında misafir olarak kaldı. İstanbul Ticaret Odası içerisinde temsilen bazı Japon mallarını tanıtmak için küçük bir sergi açtı (Daha sonra ise ticaret odası'ndan ayrılarak kendi mağazasını açtı).

1894 Prens Komatsu (sonradan Prens Higashi Fushimi ismiyle tanınır) Yorihiro, Shôgo NAGASAKI ve heyeti ile birlikte İstanbul'a gitti ve II. Abdülhamid'i ziyaret etti. Morinari (HOSOKAWA) ve Kichitarô İKEBE de aynı sene içerisinde İstanbul'a gitti.

1896 Kara Kuvvetleri personeli Albay Yasumasa FUKUSHIMA, Avrupa ve Asya ülkelerini ziyaret

	etmek için çıktığı uzun yolculuk esnasında İstanbul'a da gitti. Osaka'lı işadamı Tamesaburô NAKAMURA, İstanbul'a gitti ve Pera Caddesi'ne nazır iyi bir yerde Nakamura Mağazasını açtı (? veya 1897 Sene.). Gazeteci-yazar Chisen ASAHİNA ve Kotarô MOCHİZUKİ, İstanbul'a gitti. Japonya İletişim Bakanlığı'nda görevli Kenjirô DEN, İstanbul'a gitti ve II. Abdülhamid ile görüştü. Sohô TOKUTOMİ ve Eigo FUKAİ, İstanbul'a gitti. Yorimichi TOKUGAWA ve Eikichi KAMATA da, İstanbul'a gitti. Japonya Kara Kuvvetleri personeli Tümgeneral Masatake TE-RAUCHİ ve Albay Koichirô TACHİBANA, İstanbul'a geldi ve Sultan II.Abdülhamid ile görüştü.
1897	Tam olarak hangi tarih olduğu bilinmemekle birlikte 1897'ye kadar Kenjirô NAKAMURA'nın İstanbul'a geldiği ve NAKAMURA Mağazasının birinci adamı olduğu düşünülmektedir (YAMADA ise Kenjirô NAKAMURA 'dan sonraki ikinci adam konumundaydı.). Chisen ASAHİNA tekrar İstanbul'a gitti. Japonya Deniz Kuvvetleri personeli yüzbaşı Hayao SHİMAMURA, Osmanlı-Yunan Savaşı'nı müşahade etmek için İstanbul'a gitti.
1899	Bu dönemde Japonya kolonisi olan Tayvan'daki Genel Koloni Komutanlığı tarafından Toyo-kichi İENAGA, Osmanlı İmparatorluğu'ndaki afyon durumuna dair araştırma yapması için İstanbul'a gönderildi. Ōshima Adası'nda Ertuğrul Faciasının 10. yılı dönümü adına anma töreni düzenlendi. Torajirô YAMADA , kısa süreliğine Japonya'ya döndü. Avrupa ülkelerini ziyareti çerçevesinde Atsumaro KONOE, İstanbul'a gitti. İstanbul Ticaret Odası sekreteri Spiraki, vefat etti.
1900	Japonya Maliye Bakanlığı'na mensup Keizabuô HASHİMOTO ve ziraat alanında uzman Zenjirô (Rosen) SASAKİ, Osmalı'daki tütün durumunu araştırmak için İstanbul'a gönderildi
1902	Seyyah Naokichi NAKAMURA, dünya seyahati sırasında İstanbul'a gitti. Kara Kuvvetleri Generali Gaishi NAGAOKA, İstanbul'a gitti.
1903	Avrupa'da okuyan Japon milliyetçi öğrenci Masaji İNOUE, İstanbul'a gitti.
1904	Rus-Japon Savaşı başladı. Rusya'nın özellikle boğazlardaki askeri durumunu gözlemek için Odessa Konsolosu Kametarô İJİJİMA ve sekreteri Mikinosuke MATSUMOTO İstanbul'a gitti. Bu ikili, Türkiye'de iken Kenjirô NAKAMURA ve NAKAMURA Mağazasının desteğini aldı. Fakat Rus-Japon Savaşı'nın kaderini değiştirecek önemde bilgiler tedarik edemedi geri döndüler. Osmanlı İmparatorluğu'ndan general Pertev Demirhan Rus-Japon Savaşı'nı müşahade etmek için Çin'e ve Japonya'ya geldi (~1906). Dairen (Ryojun) ve Hoten'deki savaş halini gözlemleyen Pertev Demirhan'ın İstanbul'a gönderdiği raporlar sayesinde Osmanlı'da kısa süreliğine Japonya yanlısı bir hava oluştu. Mimar Chûta İTÔ, Osmanlı mimarisini incelemek için İstanbul'a gitti. Torajirô YAMADA, Japonya'ya döndü (Kendisinin döndüğünü söylediği 1914 yılı, yapılan araştırmalara göre doğru değildir.). Shotarô NODA , vefat etti.
1905	Japonya'ya döndükten sonra Torajirô YAMADA, sigara kağıdı üretimi üzerine bir şirket kurdu.
1906	Kenjirô NAKAMURA Japonya'ya döndü. Eiichi NAKAMURA (TOSAKA) ve ailesi İstanbul'a

	gitti ve NAKAMURA Mağazasının patronu oldu. Roka TOKUTOMİ, İstanbul'a gitti. Japonya Temsilciler Meclisi vekili Sumitaka HASEBA , İstanbul'a gitti.
1907	Yarbay Morinari MORİOKA, ilk Japon askeri ataşesi olarak İstanbul'da göreve başladı (~1909).
1908	Japonya Maliye Bakanlığı görevlisi Yoshio SAKATANİ, İstanbul'a gitti. Hakubunkan Yayınevi'nden Zenshirō TSUBOYA ve Kitahama Bankası genel müdürü Shōichirō KODUKA İstanbul'a gitti.
1909	Ōshima'da Ertuğrul Fırkateyni'nin batışının 20. yıldönümüne atfen anma töreni düzenlendi. Japon tarihçi Katsumi KUROİTA ve hukuk uzmanı Sakutarō TACHİ, İstanbul'a gitti. Yarbay Kojirō SATŌ, askeri ataşe olarak İstanbul'a gitti (~1911). Abdürreşid İbrahim Japonya'ya geldi.
1910	Tümgeneral Tarō UTSUNOMİYA, Türk-Japon diplomatik ilişkilerinin başlatılması için büyük çaba sarfetti. İlk Japon hacı olan Mitsutarō YAMAOKA, İstanbul'a gitti. Masaji İNOUE , tekrar İstanbul'a geldi.
1911	Yarbay Chōtarō MURAOKA, askeri ataşe olarak İstanbul'a atandı (~1913). İngiltere'den Japonya'ya dönüş yolculuğunda General Maresuke NOGI ve Yarbay Toyohiko YOSHIDA, İstanbul'a uğradı ve Sultan V. Mehmet ile görüştü. Bankacı Yukinori HOSHINO, İstanbul'a gitti. Torajirō YAMADA "Türkiye Portresi (Toruko Gakan)" eserini yayınladı.
1914	I. Dünya Savaşı başladı. NAKAMURA Ailesi, İstanbul'daki mağazanın işletmesini bıraktı. Ei-ichi NAKAMURA, Japonya'ya döndü. Mağazada çalışan Paskal Reymond ise burayı devraldı ve Fujiyama NAKAMURA ismiyle işletmeye devam etti (~1960'lara kadar)
1917	Japonya Deniz Kuvvetlerine mensup bir savaş gemisi (Gemi Komutanı: Tümgeneral Kōzō SATŌ), İngiliz ve Fransız gemilerine destek maksadıyla Akdeniz'e gönderildi (~1919). İstanbul'a da uğradı.
1920	Yarbay Muneaki KUWAKİ, askeri ataşe olarak İstanbul'a atandı (~1921).
1921	Sibirya'daki Türk esirleri İstanbul'a getiren Heimei-maru Gemisi, Ege Denizi'nde Yunan bahriye kuvvetlerince durdurularak uzun bir süre esir alındı (Heimei-maru Olayı). Bunun üzerine özel elçi Sadatsuchi UCHIDA, İtilaf Devletleri Yüksek Komitesi'nin üyesi sıfatıyla İstanbul'a gitti.
1923	Heimei-maru Olayı'ndaki başarısından dolayı UCHIDA, Türkiye elçisi yapıldı. UCHIDA, Japonya'ya döndükten sonra birinci sekreter Akeo KASAMA, geçici süreliğine elçi vekili oldu. Lozan Antlaşmasının akdi onun dönemine rastlar.
1924	Lozan Antlaşması'nın geçerliliğiyle birlikte Türkiye Cumhuriyeti ile Japonya arasında ilk kez diplomatik ilişkiler başlamış oldu. Mançurya demiryollarında çalışan Kurbanalı, Japonlar



tarafından Tokyo'ya davet edildi ve burada Tokyo Müslüman Cemiyetini kurdu.

1925 İstanbul'daki geçici elçi KASAMA'nın Japonya'ya dönüşü üzerine Shirô HANAOKA yerine geçti. İstanbul'da Japonya Büyükelçiliği, Tokyo'da da Türkiye Cumhuriyeti Büyükelçiliği açıldı. Shinkichi OBATA, büyükelçi olarak İstanbul'a atandı. Chishû NAİTÔ, çevirmen olarak Japonya Büyükelçiliği'nde çalışmaya başladı. Osaka Ticaret Odası bünyesinde Japon-Türk Ticaret Derneği (Dernek Başkanı: Katsutarô İNAHATA; Mütevelli Heyeti Başkanı: Torajirô YAMADA) kuruldu.

1926 Kôzui ÔTANİ öğrencisi Satoshi GOTÔ'yu, Galatasaray Lisesi'nde okuması için İstanbul'a gönderdi. Kôzui ÔTANİ ve beraberindekiler, ticari amaçla Türkiye'nin dört bir tarafında incelemelerde bulundu. İstanbul'da Japon malları sergisi açıldı. Tokyo'da Japon-Türk Derneği (Başkan: Sadatsuchi UCHIDA kuruldu. Japonya Deniz Kuvvetlerine ait talim gemileri YAKUMO ve İZUMO, İstanbul'a gitti. Heyetin başındaki Korgeneral Eisuke YAMAMOTO, Ankara'ya gitti ve Mustafa Kemal Atatürk'e nezaket ziyaretinde bulundu. Hitoshi ASHIDA, Japonya Büyükelçiliği'nde birinci sekreter olarak çalışmaya başladı. Japonya Dışişleri Bakanlığı tarafından İstanbul'da Yakın Doğu Ticaret Konferansı yapıldı.

1927 Kôzui ÔTANİ, Ankara'da ziraat alanında yatırım işine girdi. Bu çerçevede ÔTANİ, Tatsumi KAMIMURA ve diğer bazı öğrencilerini ön çalışma yapmaları için bu şehre gönderdi. Kıdemli yüzbaşı Kingorô HASHİMOTO, askeri ataşe olarak İstanbul'da çalışmaya başladı (~1930).

1928 Büyükelçi OBATA, Japonya'ya döndü ve birinci sekreter ASHIDA, geçici süreliğine büyükelçi vekili oldu. Japon-Türk Ticaret Derneği, Ôshima'da Ertuğrul Fırkateyni kazasının yıldönümü dolayısıyla büyük çaplı bir anma töreni düzenledi. Kôzui ÔTANİ ve beraberindekiler, ticari yatırımları için ikinci kez tüm Türkiye'yi dolaştı. Araştırmaları sonucunda ise, Bursa'da ipek fabrikası üzerine yatırım yapmaya karar verirler. Japonya Ticaret ve Sanayi Bakanlığı, İstanbul'da Japon malları mağazası açmaya karar verdi.

1929 Prens Takamatsu (Takamatsu no miya) Nobuhito, Japon-Türk Derneği başkanı oldu. ÔTANİ, Bursa'da Gökçen Ailesi ile ortaklaşa ipek fabrikası açtı (~1931 ?). Japon Ticaret ve Sanayi Bakanlığı inisiyatifinde ve işletme hakkı Japon-Türk Ticaret Derneği'ne devredilmek suretiyle İstanbul'da Japon Ticaret Sergisi kuruldu (Müdürü: Yasukichi YASUE. Bursası, 1937 yılında kapandı). Nippon Yûsen (Japon Gemi Postacılık Kurumu) tarafından Japonya-İstanbul hattı açıldı. Geçici Japon-Türk Ticaret Antlaşması imzalandı. Japon-Türk Ticaret Derneği, Ertuğrul Fırkateyni anısına Ôshima'ya anıt kurdu (Anıttaki Yazı: Kôzui ÔTANİ). İmparator Shôwa, Wakayama Eyaleti'ni ziyareti sırasında Ôshima'ya gitti. Geçici büyükelçi ASHIDA, Tokyo Üniversitesi'nden doktorasını aldı ve akabinde ise Japonya'ya döndü.

1930 İsaburô YOSHIDA, Büyükelçi olarak İstanbul'a atandı. Yarbay Minoru İMURA da, askeri ataşe olarak İstanbul'a gitti (~1932). Japon-Türk Deniz Ticareti Antlaşması imzalandı (1931'den itibaren yürürlüğe girdi). Tokyo'da Mekteb-i İslamiye ve Matbaa-i İslamiye kuruldu. Japon-Türk Ticaret Derneği mütevelli heyeti başkanı sıfatıyla Torajirô YAMADA, Yunanistan'a ve Türkiye'ye gitti. Türkiye'deyken Ankara'daki Cumhuriyet Bayramı törenine katıldı.

1931	Prens ve Prenses Takamatsu (Takamatsu no miya), Türkiye'yi ziyaret etti ve Mustafa Kemal Atatürk ile görüştiler. Osaka Ticaret Odası Başkanı Heibei MORİ, Türkiye Cumhuriyeti'nin Osaka'daki fahri konsolosu oldu. Tokyo'daki Mitsukoshi Mağazası'nda Türkiye sergisi açıldı. Nagoya Camii açıldı (1945'deki yangın sonucu yıkıldı). Chishû NAİTÔ, Japon-Türk müzakereler tarihi üzerine yazdığı doktora tezini tamamlayarak Tokyo Üniversitesi'nden doktora ünvanını kazandı.
1932	Yarbay Masatane KANDA, askeri ataşe olarak İstanbul'da çalışmaya başladı (~1934).
1933	Büyükelçi YOSHIDA, Ankara'da vefat etti. Yerine Kimitomo MUSHANOKÔJİ atandı. Japon-Türk Ticaret Derneği Mütevelli Heyeti Başkanı Torajirô YAMADA, Yunanistan'ın Osaka fahri konsolosu oldu. Türkiye'den Abdürreşid İbrahim Japonya'ya davet edildi. Türk milliyetçi hareketin önde gelen isimlerinden Ayaz İshaki de Japonya'ya geldi. Osmanlı Şehzadesi Abdülkerim de Japonya'ya geldi.
1934	Takas sisteminin başlatılmasıyla Japon-Türk Ticari Konseyi kuruldu. Japonya Deniz Kuvvetlerine ait talim gemileri İWATE ve ASAMA (Heyet Komutanı: Koramiral Hajime MAT-SUSHITA, İstanbul'a gitti. Yarbay Watarô YOSHİNAKA, askeri ataşe olarak İstanbul'a atandı (~1936). Japon-Türk Geçici Ticaret Antlaşması imzalandı. İemasa TOKUGAWA, büyükelçi olarak İstanbul'a atandı. Tokyo'da Kurbanali ve yandaşları ile İshaki ve grubu arasında büyük bir kavga patlak verdi (İzumibashi Kulübü Olay).
1935	Kobe Camii açıldı.
1936	Montrö Boğazlar Antlaşması imzalandı. Milletler Cemiyeti Boğazlar Komitesi ilhak edildi (Japonya da müdahildi.). Yarbay Takeaki İSOMURA, askeri ataşe olarak İstanbul'a atandı (~1938). Japon Türkolog Kôji ÔKUBO, Türkiye'ye gitti ve Mustafa Kemal Atatürk ile görüştü.
1937	Toshihiko TAKETOMİ, büyükelçi olarak İstanbul'a atandı. Türkiye Cumhuriyeti Devleti tarafından Ôshima'da yeni bir Ertuğrul Anıtı açıldı. Açılış töreni ve aynı zamanda kazayı anma töreni gerçekleştirildi. Japonya Deniz Kuvvetlerine bağlı talim gemileri YAKUMO ve İWATE (Heyet Komutanı: Korgeneral Mineichi KOGA), İstanbul'a gitti. Japon-Türk Ticaret Derneği, ismini Yakın Doğu Ticaret Derneği olarak değiştirdi. Japonya Büyükelçiliği İstanbul'dan Ankara'ya taşındı. Japon-Türk Ticaret Antlaşması imzalandı.
1938	Kurbanali Tokyo'dan Mançurya'ya zorla geçti. Tokyo Camii açıldı (1984'te hizmeti durduruldu ve 1986'da da yıkıldı). Tokyo'da Alem-i İslam Araştırmaları Merkezi (Kaikyôken Kenkyûjo) açıldı. Yarbay Hôsuke TATEİSHİ, askeri ataşe olarak Ankara'ya atandı (~1939).
1939	Büyük İslam Derneği (Dai Nippon Kaikyô Kyokai) tarafından Tokyo, Osaka ve Nagoya'da İslam Dünyası sergileri açıldı (~1940).
1940	Tadashi KURİHARA, büyükelçi olarak Ankara'ya atandı.
1942	Japonya Dış İşleri Bakanlığı personeli Takashirô KOBAYASHİ, Sovyetler Birliği üzerinden

	görev yeri Ankara'ya geldi. II. Dünya Savaşı'nın tüm şiddetiyle sürdüğü bu dönemde, Türk-Sovyet hattı Japonya'nın Avrupa'ya açılan yegane kapısıydı.
1943	Tokyo'daki Türkiye Cumhuriyeti Büyükelçiliği Karuizawa'daki Manpei Otel'ine taşındı. Japonya'daki Türk vatandaşları da Karuizawa Bölgesine gönderildi.
1944	Abdürreşid İbrahim Tokyo'da vefat etti ve Tama Mezarlığı içerisindeki Müslüman mezarlığına gömüldü.
1945	Türkiye Cumhuriyeti Büyük Millet Meclisi Japonya ile olan resmi ilişkilerini durdurma kararı aldı. Bunun üzerine Ankara'daki Japonya Büyükelçiliği kapandı.
1947	Japon Türkolog Kôji ÔKUBO, vefat etti.
1948	"İstanbul Gecesi" adlı eser (Yazarı: Takashirô KOBAYASHI) yayınlandı.
1949	"İstanbul" adlı roman (Yazarı: Sotoo TACHIBANA) yayınlandı.
1950	Yusuf TÜRK, Türk ordusuna mensup askerlerden kurulu Judo ve Boks takımları ile gösteri maçı yaptı.
1951	San Fransisko Barış Antlaşması imzalandı (1952'de yürürlüğe girdi). Tokyo'da Türkiye Cumhuriyeti Konsoloslugu hizmete açıldı.
1952	Türkiye Cumhuriyeti Tokyo Büyükelçiliği yeniden hizmete açıldı. Yusuf Türk, kulvarını değiştirerek Rikidôzan profesyonel güreş kategorisine geçti.
1953	Japonya Ankara Büyükelçiliği yeniden açıldı. Japon-Türk Deniz Ticareti Protokolü yeniden devreye girdi.
1954	Nippon Yûsen (Japon Gemi Postacılar Kurumu) tarafından Orta Doğu Hattı tekrar açıldı. "Üsküdar" Şarkısı (Şarkıyı Seslendiren Japon Sanatçı: Chiemi ERI) Japonya'da meşhur oldu.
1955	Japon-Türk Ticari Ödeme Antlaşması akdedildi.
1956	Nazım Hikmet, Hiroshima'ya atılan atom bombası temalı şiiri "Kız Çocuğu"nu okudu.
1957	Japon-Türk Karşılıklı Vizesiz Geçiş Antlaşması akdedildi (1958'den itibaren yürürlüğe girdi). Torajirô YAMADA, vefat etti.
1958	Ôshima Köyü ile Kushimoto Belediyesi birleştirildi ve yeniden Kushimoto Belediyesi oldu. Türkiye Cumhuriyeti Başbakanı Adnan Menderes Japonya'ya geldi.
1959	Japonya ile Türkiye arasında açık hesap esasına dayanan ticari ilişkilerden (Open account) vazgeçildi ve serbest ticarete geçildi. Ertuğrul Fırkateyni Olayı'nın 70. yıldönümünü anma

	törenleri düzenlendi.
1963	Prens ve Prenses Mikasa (Mikasa-no-miya), Türkiye'ye gitti. Japonya Ticareti Kalkındırma Kurulu, İstanbul'da bir şube açtı.
1964	Ertuğrul Fırkateyni Olayı'nın 75. yıldönümünü anma törenleri düzenlendi. Kushimoto ile Yakakent arasında kardeş belediye protokolü imzalandı.
1965	İstanbul'da Japonya Konsolosluğu kuruldu (1972'de Başkonsolosluğa yükseltildi). Japonya'ya yönelik Türk Hükümeti burs sistemi hizmete sokuldu. 'Nasreddin Hoca Hikayesi' Japonca yayınlandı.
1969	Ertuğrul Fırkateyni Olayının 80. yıldönümünü anma töreni düzenlendi. Ankara'da Türk-Japon Kadınlar Derneği kuruldu.
1970	Japon Ekonomik Derneği (Keidanren Derneği)'nin geniş katılımlı iktisadi heyeti, Türkiye'yi ziyaret etti.
1972	Mersin Büyük Şehir Belediyesi'nde Ōshima'daki Ertuğrul Anıtının aynısı yapıldı. Shimono-seki ile İstanbul arasında kardeş belediye antlaşması yapıldı. Japonya'da Ajda Pekkan'ın "Ai no Omoi de" – "Wasureenu Hito" adlı plağı çıktı.
1974	Paris'te Türk Hava Yolları uçağının düşmesiyle 48 Japon vatandaşı öldü. Ertuğrul Fırkateyni'nin 85. yıldönümü vesilesiyle anma töreni düzenlendi. Ōshima'ya Türk Müzesi açıldı. İstanbul'da Japon Hükümet kredisıyla İshikawajima Harima İnşaat Şirketi tarafından "Golden Horn" Köprüsü (eski Haliç köprüsü) inşa edildi.
1975	Kushimoto ile Mersin arasında kardeş belediye protokolü akdedildi.
1976	İstanbul'da Türk-Japon Kadınlar Derneğinin bir ofisi açıldı.
1977	Tokyo'da 8. Dünya Şarkı Yarışmasında Ajda Pekkan "A Mes Amours" ile sahnedeki yerini aldı. Ajda Pekkan bu şarkısıyla bir de ödül aldı (Organizasyon Yamaha tarafından yapıldı).
1978	"Tonde İstanbul" şarkısı Japonya'da halk arasında meşhur oldu. (Şarkıcı: Mayo SHŌNO)
1980	Amerika'da "Shogun" adında geleneksel Japonya'yı anlatan bir dizi yayınlandı (Bu dizi daha sonra Türkiye'de de yayınlandı ve bu sayede kısa süreliğine olsa Japonya'ya olan ilgi birden attı.)
1982	Aktör Roy JAMES, vefat etti (Sovyetlerden göç eden Kazan Tatarı ve eski Tokyo Cami İmamı Aynan Safa'nın oğludur. Naaşi Tama Mezarlığı içerisindeki Müslüman mezarlıklar kısmına defnedildi).
1984	Japon-Türk Parlamenterler Birliği kuruldu. Ankara'da Türk-Japon Derneği kuruldu.

	Japonya'da Türk Hamamı kültürü "Soup Land" ismiyle anılmaya başladı. (Bir ara Japonya'da Türk Hamamı kültür yanlış tanıtılıyordu, bunu bir Türk öğrenci tarafından yapılan protestoyla düzeltildi) Japon Devlet kanalı NHK, "İpek Yolu- Silk Road-" belgeselinin 2. bölümünde Türkiye konusunu işledi (Sonrasında bu belgesel Türkiye'de de gösterildi. Belgeselin fon müziğini ünlü Japon bestekar Kitaro yaptı.).
1985	Türk-Japon Parlamenterler Birliği kuruldu. İran-İrak Savaşı sırasında Tahran'daki Japon vatandaşları Türkiye'ye ait bir uçakla kurtarıldı. Türkiye Cumhuriyeti Başbakanı Özal ve eşi Japonya'ya geldi. Japon Hükümeti kalkındırma projesi yardımı ile İshikawajima Harima İnşaatı tarafından ikinci boğaz köprüsünün (Fatih Sultan Mehmet Köprüsü) inşaa çalışmaları başladı (Yapımı 1988'de tamamlandı). Ertuğrul Fırkateyninin 95. yıldönümü dolayısıyla anma töreni düzenlendi. Türk yapımı "Yol" filminin Japonya'da gösterimi yapıldı (Yönetmen Yılmaz Güney).
1986	İstanbul ve Ankara'da "Japonya Haftası" çerçevesinde çeşitli organizasyonlar düzenlendi. İstanbul'da Türk-Japon Dostluk Derneği kuruldu. Ankara Üniversitesi'nde Japon Dili ve Edebiyatı Ana Bilim Dalı açıldı. Orta ve Yakın Doğu Kültür Merkezi tarafından Kaman-Karahöyük'de kazı çalışmaları başlatıldı.
1987	Kyoto'da Japon-Türk Kültür Derneği kuruldu. İstanbul Japon Vatandaşları Derneği kuruldu.
1988	Sagae Belediyesi (Yamagata Eyaleti) ile Giresun Belediyesi arasında kardeş şehir protokolü başlatıldı. Tokyo-Shinjuku'da ilk Türk restoranı açıldı.
1989	Türkiye Cumhuriyeti Başbakanı Turgut Özal, İmparator Shōwa'nın cenaze töreni için Japonya'ya geldi Japonya ile Türkiye arasında uçuş protokolü imzalandı ve böylelikle Narita'dan İstanbul'a direk uçuşlar başlatıldı. Tonami Belediyesi (Toyama Eyaleti) ile Yalova Belediyesi arasında kardeş şehir protokolü başlatıldı.
1990	Türkiye Cumhuriyeti Cumhurbaşkanı Turgut Özal, İmparator Heisei'in tahta çıkış töreni için Japonya'ya geldi. Toyota ve Sabancı Şirketleri ortaklaşa araba üretimi ve satımı konusunda anlaşmaya vardı. Japonya Başbakanı Toshiki KAİFU, Ankara'ya gitti. Japon-Türk ilişkilerinin 100. yıldönümü (Ertuğrul Fırkateyni Olayı) anısına çeşitli faaliyetler düzenlendi .
1992	Türkiye Cumhuriyeti Başbakanı Süleyman Demirel ve eşi Japonya'ya geldi. Japon-Türk Yatırım Güvenliği Antlaşması akdedildi (1993'te antlaşmanın tasdiklendiği resmi belgelerin değiş-tokuşu gerçekleştirildi). Tokyo Yabancı Diller Üniversitesi'nde Pers Dili Bölümü'ne bağlı Türk Dili kürsüsü açıldı. Honda ve Anadolu Şirketleri görüşerek "Anadolu Honda" arabalarının üretimi konusunda anlaşmaya vardı.
1993	Japon-Türk Çifte Vergiledirmenin Önlenmesi Antlaşması imzalandı (1994'te yürürlüğe girdi). Osaka Yabancı Diller Üniversitesi'ndeki Orta Doğu Bölümü'nde Türkçe kürsüsü kuruldu. Çanakkale Üniversitesi'nde Japonca Öğretmenliği Ana Bilim Dalı kuruldu. Kaman'da Prens Mikasa Bahçesi (Japon Bahçesi) açıldı.

1994	Adapazarı'nda Toyota ile Sabancı Holdingleri, ortaklaşa Toyotasa arabalarının seri üretimine başladılar. Erciyes Üniversitesi'nde (Kayseri) Japon Dili ve Edebiyatı Ana Bilim Dalı kuruldu.
1995	Türkiye Cumhuriyeti Tokyo Büyükelçiliği içerisinde Türk Ticaret ve Sanayi birimi kuruldu. Türkiye Cumhuriyeti Başbakanı Tansu Çiller ve eşi, Japonya'ya geldi. Türkiye'de sevilen ses sanatçısı Barış Manço, Min-on Sanat ve Müzik Derneği'nin davetiyle Japonya'ya geldi.
1996	Niigata Eyaleti Kashiwazaki Şehri'nde Türk Köyü kuruldu.
1997	Ankara'da Türk-Japon Vakfı Kültür Merkezi açıldı.
1998	İstanbul'a yakın Gebze Bölgesi'nde "Anadolu Honda"'nın seri üretimine başlandı. Kaman'da Orta ve Yakın Doğu Kültür Merkezi'ne bağlı Anadolu Arkeoloji Araştırmaları Merkezi açıldı. Japon aktris Ayumi TAKANO, Türk Filmi "Herşey Çok Güzel Olacak"'ta rol aldı. Sonrasında da kariyerini Türkiye'de sürdürdü.
1999	İstanbul'da Japon Hükümetinin kredisıyla İshikawajima Harima İnşaatı Anonim Şirketi tarafından "Golden Horn" Köprüsü yapıldı (eski köprü'nün bakımı ve yeni köprü'nün inşaatı çalışmaları yapıldı).
2000	Tokyo Camii ve Türk Kültür Merkezi kuruldu. Türk Televizyonunda "Pokemon" çizgi romanının gösterime başladı ve Türk kamuoyunun büyük ilgisini çekti.
2001	Kashiwazaki'deki Türk Kültür Köyü geçici süreliğine kapandı (2002 senesinde kısa süreliğine yeniden açıldı da, sonrasında yeniden kapatıldı). Toyota-Sabancı ortaklığından Sabancı Holding tüm hak ve yetkilerini geri çekti ve %100 Toyota sermayesi ile üretime devam edildi. Ayrıca Toyota-Sabancı ismi, Toyota-Türkiye (TMTT) olarak değiştirildi (2009 yılında toplam 1.000.000 araba üretme başarısını gösterdi.)
2002	Japonya'nın ve Güney Kore'nin ev sahipliğini yaptığı 2002 FIFA Dünya Kupası'nda Türk milli futbol takımı, 3. oldu. Bu turnuva sonrasında Türk futbolcu İlhan Mansız, Japon kamuoyunda çok büyük ilgi ve alaka gördü. Yukijirushi Süt ve Süt Ürünleri Şirketi, Japonya genelinde "Türk Dondurmaları" satmaya başladı.
2003	Japonya'da Türkiye Yılı ilan edildi. Anadolu Honda ortaklığı, %100 Japon sermayesiyle Honda-Türkiye Anonim Şirketi olarak isim değiştirdi.
2004	Türkiye Cumhuriyeti Başbakanı Recep Tayyip Erdoğan, Japonya'ya geldi. Kashiwazaki Türk Kültür Köyü tamamiyle kapatıldı. İstanbul'da Taisei İnşaat Şirketi tarafından İstanbul Boğazının altından demiryolu geçiş tüneli projesi olan Marmaray'a başlandı. İlhan Mansız, Japonya Ligi takımlarından Vissel Kobe'ye transfer oldu (Mansız, yeni takımıyla sadece 3 resmi maça çıktı). Shibuya Belediyesi Türk Dostluk Derneği kuruldu.
2005	Ertuğrul Fırkateni Olayı'nın 115. yıldönümü vesilesiyle anma töreni düzenlendi. Shibuya (Tokyo Eyaleti) ve Üsküdar (İstanbul Büyükşehir Belediyesi) kardeş belediye protokolüne

	imza attı.
2006	Japonya Başbakanı Junichirô KOİZUMİ, Türkiye'ye gitti. 1985 yılında İran'dan Japonları kurtaran THY uçağı ile ilgili 13 Türk'e, Japonya tarafından Japon devlet nişanı hediye edildi. Japon futbol millî takımı oyuncusu Junichi İNAMOTO, Türkiye 1. Ligi'nin önde gelen takımlarından Galatasaray'a transfer oldu (~2007).
2007	Kushimoto-Ôshima'da Bodrum Sualtı Arkeoloji Enstitüsü yönetiminde Ertuğrul Fırkateyni kalıntılarını çıkarma çalışmaları gerçekleştirildi. Tôkai (Aichi Eyaleti) ve Nilüfer (Bursa Büyük Şehir Belediyesi), kardeş belediye protokolüne imza attılar. İstanbul Büyük Şehir Belediyesi İlçelerinden Üsküdar'da "Shibuya Caddesi" açıldı. Japon Tütün Ürünleri Şirketi JT (Japan Tobacco) Türkiye Cumhuriyeti Devletine ait tütün kuruluşunu satın aldı.
2008	Türkiye Cumhuriyeti Cumhurbaşkanı Abdullah Gül, Japonya'ya geldi ve Kushimoto-Ôshima'yı ziyaret etti.
2009	Kyoto Belediyesi ve Konya Büyükşehir Belediyesi arasında partnership(ortak) şehir anlaşması yapıldı.
2010	"Türkiye'de Japonya Yılı" ilan edildi. Sasakawa Barış Vakfı tarafından Kashinozaki'de bir dönem kurulmuş olan Türk Kültür Köyü'nden Atatürk büstü alınarak Ôshima'ya kondu. Ertuğrul Fırkateyni Olayı'nın 120. yıldönümü dolayısıyla anma töreni düzenlendi.

[Yazar ve Metin Sorumlusu: Prof. Nobuo MİSAWA (Toyo Üniversitesi)]